

多言語・多文化社会研究全国フォーラム 第4回

発表抄録 目次

全体会 I 【パネルディスカッション】 「多文化共生」と「協働実践研究」	18
理念の継承と展開（藤井毅）	19
多言語・多文化を学び、実践する（尹慧瑛）	20
協働実践研究に関わる中で（山西優二）	21
大学の知的資源の還元と協働実践研究の意味 —社会連携活動から見えてきたもの—（杉澤経子）	22
協働実践研究 A 【東京外国語大学/横浜市鶴見区 協働実践研究チーム】 地域における多文化的な「つながり」の創出と自治体の多文化共生政策 —横浜市鶴見区の現状から考える	23
多文化社会における「つながり」の重要性と自治体政策の役割（塩原良和）	24
外国人住民のもつ「つながり」方の多様性 —横浜市鶴見区調査から—（武田里子）	25
地域社会と外国人住民の「つながり方」 ～ジェンダーに注目して～（長谷部美佳）	28
鶴見区の多文化共生施策の現状と今後 ～鶴見区在住外国人へのインタビュー調査を実施して～（大塚尚子）	29
協働実践研究 B 【東京外国語大学/長野県上田市 協働実践研究チーム】 「多文化共生」の内実を「居場所」の視点から観る —「協働型居場所づくり尺度」の開発 地域日本語教室の調査から	30
上田市の「多文化共生」政策における日本語事業（小山博一）	32
日本語ボランティア養成講座の考え方と実践（山辺真理子）	33
「多文化共生に向けての居場所」とは（山西優二）	35
心理学における「居場所」から「協働型居場所づくり尺度」へ（阿部裕）	36
「協働型居場所づくり尺度」の開発 —地域日本語教室の調査から（石塚昌保）	37
世界の多言語・多文化社会研究セッション 【パネルディスカッション】 われわれとかれら—国際比較：多言語・多文化と向き合う社会	40
ドイツ連邦共和国における移民の「統合問題」 —2005年以降の移民統合政策から—（説田英香）	41
日系アメリカ人のステレオタイプ—帰米二世の考察を通して（河野利佳子）	42
国民統合の理念と今日のフランス社会（宮崎友子）	43

グループ発表

1. 外国人児童生徒の母語を生かした学習支援
—太田市バイリンガル教員の実践を中心に……………44
外国人児童の母語を生かした入り込み指導（末永サンドラ輝美）……………45
外国人児童の母語を生かした「作文指導」
—日本語で文章を書くこと—（葛尾あゆみネイデ）……………46
バイリンガル教員としてできる自校での国際理解教育（堀川ルミ）……………47
中学校外国籍生徒への受験に向けての指導と支援～数学編（クラウス百合子）…48
中学校外国人生徒受験に向けての対応（栄屋江美）……………49
国際教室担当とバイリンガル教員の協働を通して
—放課後・長期休業中の補習指導—（小林あけみ）……………50
バイリンガル教員としての課題と展望（三澤由佳子）……………51
2. 「我々」と「彼ら」が「わたしたち」になるために
—母語維持教室と大学生との協働実践—
（Colodeti Yokota Silvia Rosane・松尾慎・坂本裕美・西原明子・四居美穂子）……………52
3. 祝祭空間から「多文化共生」を問う
—関西地域における祝祭の研究から—……………54
京阪神における民族まつり／マダンの変遷—人と人との交差—（藤井幸之助）…55
「在日」のマダンから「ラティーノ」のマダンへ？
—エスニック・マイノリティの「可視性」をめぐる表象・物語・戦術—（稲津秀樹）…56
見えない「他者」とひらく祝祭空間—越境する祝祭と身体経験—（渡辺紀子）……………57
4. EPA によるインドネシア人介護福祉士候補者をとおして考える日本語教育の協働……………58
EPA介護福祉士に対する日本語支援（有賀久美子・橋本由紀江）……………59
インドネシア人とともに学びあえる介護専門日本語（上杉祐子）……………60
EPA候補者・受入れ施設の多様性に応じた協働のあり方（池田聖子）……………61
5. もっと上手に情報共有：外国につながるある児童・生徒の教育支援……………62
多言語リソース作りの課題について（柳澤勤）……………63
学校教育現場のための多言語情報検索ツール（堀雅洋）……………64
6. 「外国人と貧困」を考える—国勢調査の分析と事例報告からみた問題提起……………65
人権・共生から貧困へ—移住連貧困プロジェクトの背景
（大曲由起子・奥貫妃文・高谷幸）……………66
「移住者と貧困」をめぐる基本視角—潜在能力の平等のために（樋口直人）……………67
フィリピン人シングルマザーと貧困（稲葉奈々子・高谷幸・鈴木健）……………68
進学格差をめぐる国籍間比較—実態把握と分析（鍛治致・樋口直人）……………69

個人発表

1. フィリピン系ニューカマーの教育意識と教育資源
—英語とネットワークの重要性に注目して（三浦綾希子）……………70
2. EPA介護福祉士候補者を対象とした会話能力測定テスト（野村愛・文野峯子）……………71
3. 言語資本主義と愛の言説批判序説—多文化共生を越えて（春原憲一郎）……………72

4. フランスの公立学校にみる移民問題（鳥羽美鈴）	73
5. 思春期に文化間移動を行った中国帰国者のアイデンティティに関する追跡研究 （永井智香子）	74
6. タイと日本の「はざま」の文化に生きる子どもたちの自己実現意識育成の実践的研究 （矢嶋ルツ・小林悦子）	75
7. 外国人非集住地域の防災情報多言語化の試み —避難マップ・地域FM・防災訓練—（伊藤早苗）	76
8. 演劇による多文化共生 —可児市文化創造センター「多文化共生プロジェクト」—（田室寿見子）	77
9. 医療通訳共通基準の内容と策定経緯について（西村明夫）	78

特定課題セッション【多文化社会コーディネーター協働実践研究グループ】

コーディネーターの専門性はどう形成されるか—現場からの考察・提案	79
----------------------------------	----

「研究のねらいと経緯—コーディネーターの専門性形成に向けて」—(山西優二)……………81

1. 省察の場づくりにみる多文化社会コーディネーターの力量形成 —「国際センター サポート・ボランティア事業」における実践を通じて（菊池哲佳）	82
2. 「協働」の実践に見る専門性形成—自治会との事業から（松岡真理恵）	83
3. 対話の場を作り、対話を促す —日本語教師から日本語学習支援コーディネーターへ（宮崎妙子）	84
4. 分野を超えてつなぐ—コーディネーターの専門性形成（奈良雅美）	85
5. 「開かれた吟味」 ～横浜市におけるコーディネーターの専門性と養成の取り組み～（佐藤則義）	86
6. 縦割りをつなぎ、協働を作りだす —清瀬市におけるコーディネーターの必要性と職制—（石川秀樹）	87

全体会Ⅱ【パネルディスカッション】

「多文化共生」を問い直す—差別や排除のない公正な社会をめざして	88
---------------------------------	----